

J e e p

赤信号で止ったら前の車はJ e e pである。軽ワゴン車並でエンジンが大きい四〇〇〇ccで、大型トラックのナンバーが付いている。

軽自動車の六六〇ccでよさそうなものにと岡焼きしていたら、約五五年前の生家で居候していた時代の、ある記憶が甦った。

終戦で復員し生家で二年七ヶ月暮らした。その時の思い出である。

十五・六才の時だったと思う。英語を勉強しようと思書をとった。毎月2冊ずつ約2年間で終了だったと思う。代金は月払いでよいのに珪藻土山で働いて一括送金した。教科書は、今は無いのではないかと思われるほど、上質な紙に印刷してあった。

一括送金したものだから全巻を送って来た。積み上げれば50センチ位あったと思う。最初の1、2冊勉強したけれどどうとう止めてしまった。

飽きっぽい性格なのか、積み上げた本の高さに怖じ氣ついたのか情けない。でも本は無駄にはならなかった。

私が二二才の時だから弟欽ちゃんは一五才位だと思つ。高等小学校を卒業したが、親は進学させてくれない。トッブ組で卒業したのに、友達が進学し通学して居る姿を見て口惜しかったのだろう。それをバネにその教科書で英語を勉強して居たようだ。私が小学校を卒業した時と同感であ

る。

欽ちゃんは、日曜日や休み日になると、一日何処かに行つて居たのか分らない。気にもとめないで居たが、ある日夕方JeePに乗せられて帰つて来た。

アメリカ兵とパンパンが一緒である。欽ちゃんは休日には仙台に出かけ、進駐軍のアメリカ兵と生の英語を話したかった様だ。

アメリカ兵とパンパンは、小さい風呂に一緒に入り、大声でふざけて泊つて、次の朝仙台に帰つて行く。こんな事が何回かあった。

その時のJeePはオープンカーで小さいが、エンジンは四〇〇〇cc位あり、日本本土決戦用に大量に生産された車だそうだ。

その時のJeePと私の見たJeePは形が違うが、欽ちゃんの苦学時代を懐かしく思い出した

平成十四年九月二十八日

(後記)

欽ちゃんにこの随筆をインターネットで送信したら、仙台に行つて米兵に会ったのではなく、鎌倉温泉に時々来るので、その時鎌倉まで行き英語を教わり、知り合いになつたのだそうだ。

その話、私は知らなかった。